

# 3 水道のあゆみ

## ①水道がなかったころの暮らし



水道がなかったころ、福岡市<sup>ふくおか</sup>の人たちは、どのようにして飲み水やせんたくの水を手にいれていたのかな。

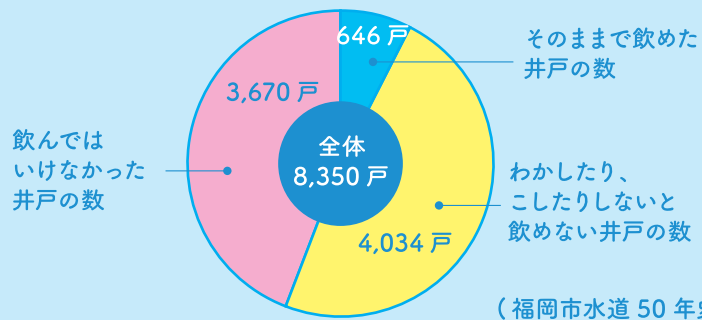
昔は、地面に穴を掘って井戸をつくり、そこから水をくんで食事の用意をしたり、せんたくに利用したりしていました。

しかし、井戸水の多くは、塩分や鉄分がふくまれ、そのまま飲むことができませんでした。

それで、井戸水を一度わかしたり、布でこしたりして飲むようにしていました。



井戸水の検査<sup>けんさ</sup>けっか<sup>めいじ</sup> 明治 44(1911) 年



毎日の生活に必要な飲み水を手に入れるには、手間がかかっていたんだね。

わあ、飲めない井戸がたくさん。今の暮らしのように、安心して水が使えなかったんだね。



(ねらい) 井戸水の検査結果や優良水(松原水)の購入などから、当時の人々の暮らしや水事情に気づかせ、水道施設への人々の願いについて考えさせてください。また福岡市で水道がつくられたきっかけとして、井戸水の汚れによる伝染性感染症の流行があったことに気づかせてください。

(解説) ●「松原水」とは、千代の松原の砂丘地帯でくみ出される飲料水のことで、長い間市民に親しまれましたが、水道が開設された大正12(1923)年3月に廃止されました。

### 水道マメ知識③

#### まつばらみず 松原水

福岡市の井戸の中には、とてもきれいな水が出る井戸もありました。

「松原水」は、東公園などの松原の井戸からくんだ水で、人々から「命の水」とよばれていました。

水売りたちが、水おけを車につんで売り歩いていたそうです。また、遠くから買いにくる人もいました。



現在、東公園に「松原水」井戸あとが保存されています。



松原水を売り歩いた車。

## 飲み水の危機

明治の中ごろから、福岡市の人口はふえてきました。それに、人々のくらしもかわってきました。そのため、たくさんの水を使うようになりました。それで、井戸の水が足りなくなり、よごれた水や飲んではいけない水を飲む人も出てきました。よごれた水や飲んではいけない井戸の水が原因で、コレラなど恐ろしい病気が流行し、多くの人々がなくなってしまったそうです。



毎日のくらしにも、こまただろうな。

きれいな水を安心して使える水道は、どのようにしてできたのかな？



(解 説) ●水質の悪化や下水処理の不完全さのためにコレラや赤痢、トラコーマなどの伝染性感染症が流行しました。  
●コレラとは、コレラ菌の感染による急性伝染病で、はきけや下痢をおこしたり、重症の場合、死にいたることもあります。福岡市では、次のように人口が増えつづけています。

年	明治22年	明治36年	大正12年	昭和10年	昭和30年	昭和50年	平成7年	令和3年
人口(人)	50,847	70,503	142,519	291,158	544,312	1,002,201	1,284,795	1,620,758

令和3年  
(9月1日現在)

# 3 水道のあゆみ

## ②水道ができてかわったくらし

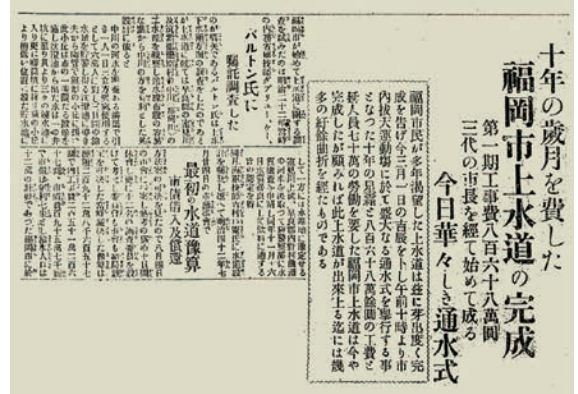


水道は、どのようにできたのかな。

福岡市では、多くの人がコレラなどで、亡くなったので、市民の健康を守るために水道をつくる必要になってきました。

しかし、福岡市始まって以来の大工事となるために、計画されてから工事が始まるまでに、ばく大な費用と長い年月がかかりました。

そして、福岡市ではじめてつくられた曲漕ダムと平尾浄水場が大正 12(1923)年に完成し、福岡市の水道が開始することになりました。令和5 (2023)年3月1日で、それからちょうど 100 年です。



水道の完成を伝える当時の新聞  
(大正 12 年 3 月 1 日福岡日日新聞)



○福岡市ではじめてつくられた水道用ダム(曲漕ダム)

このダムは、大正12年(99年前)から現在も使われている歴史のあるダムです。



○福岡市ではじめてつくられた浄水場(平尾浄水場)

この浄水場は、今の植物園の場所にありましたが、あたらしい浄水場ができて廃止になりました。



○現在、植物園に残っている平尾浄水場の建物の一部(配水池の点検用入口)



曲漕ダムと平尾浄水場は、完成までに7年の長い年月と868万円という当時としては、ばく大な費用がかかりました。(今のお金にすると48億円くらいです)

このはじめての水道は、市内の35,200人にきれいな水を配りました。1日に送り出せる水の量は、今の学校のプールの、約42はい分(15,000 m<sup>3</sup>)でした。

(ねらい) 水道が設置されて、人々は便利で衛生的なくらしができるようになったことを、水道設置前の様子と対比させながら気づかせてください。

(解説) ●福岡市の大正12年度の予算は、約260万円(現在の価値に換算すると約14億円)であることから曲漕ダムを造るのにいかに莫大な費用がかかったのかが分かります。

●福岡市の大正12年末の人口は142,519人です。

●曲漕ダムと平尾浄水場の建物の一部は、福岡市の近代化を支えたことが評価され、平成21(2009)年3月に福岡市有形文化財に指定されました。



水道ができてから、人々のくらしは、どのようにかわっていったのかな。

## 水道がなかったころ

水をくみあげたり、運んだりするのは、重くて、たいへんよ。



## 水道ができてから

じゃ口をひねるだけで、きれいで安全な水が出て、家事がらくになったわ。



はじめは、利用者が少なかった水道でしたが、その後、水道のよさが多くの人々にわかるようになり、水道を使う家がしだいにふえていきました。

多くの人々が水道の水を使うようになって、コレラなどの病気もはやらなくなり、安心して生活できるようになりました。

### 水道マメ知識④

#### 水道ができて100年！

大正12(1923)年に通水開始した福岡市の水道は、令和5(2023)年に、100周年をむかえます。

この100年間で、人口は約11倍に、水道を利用する人の割合は、人口の約99.5%になりました。

未来へ、つなぐ。



### 水道マメ知識⑤

#### 水道のよさを宣伝した「上水之葉」

水道がつくられたころは、人々は水道のことをよくしりませんでした。

そこで、福岡市は、「上水之葉」をくばって水道の利用を呼びかけました。

#### 主な内容

「コレラでも、チブス赤痢も何のその、水道ひけば家内安全」

「料理に使えば、味良く、やわらかくにえ、ねまり方(くさり方)もおそい。」



大正12(1923)年に作られました。

(解説) ●「上水之葉」は水道が完成した大正12年に市役所が市民に水道の使用を普及させるために配布したものです。  
●「上水之葉」の「上水」とは下水道に対する言葉で、上水道(水道水)を意味しています。

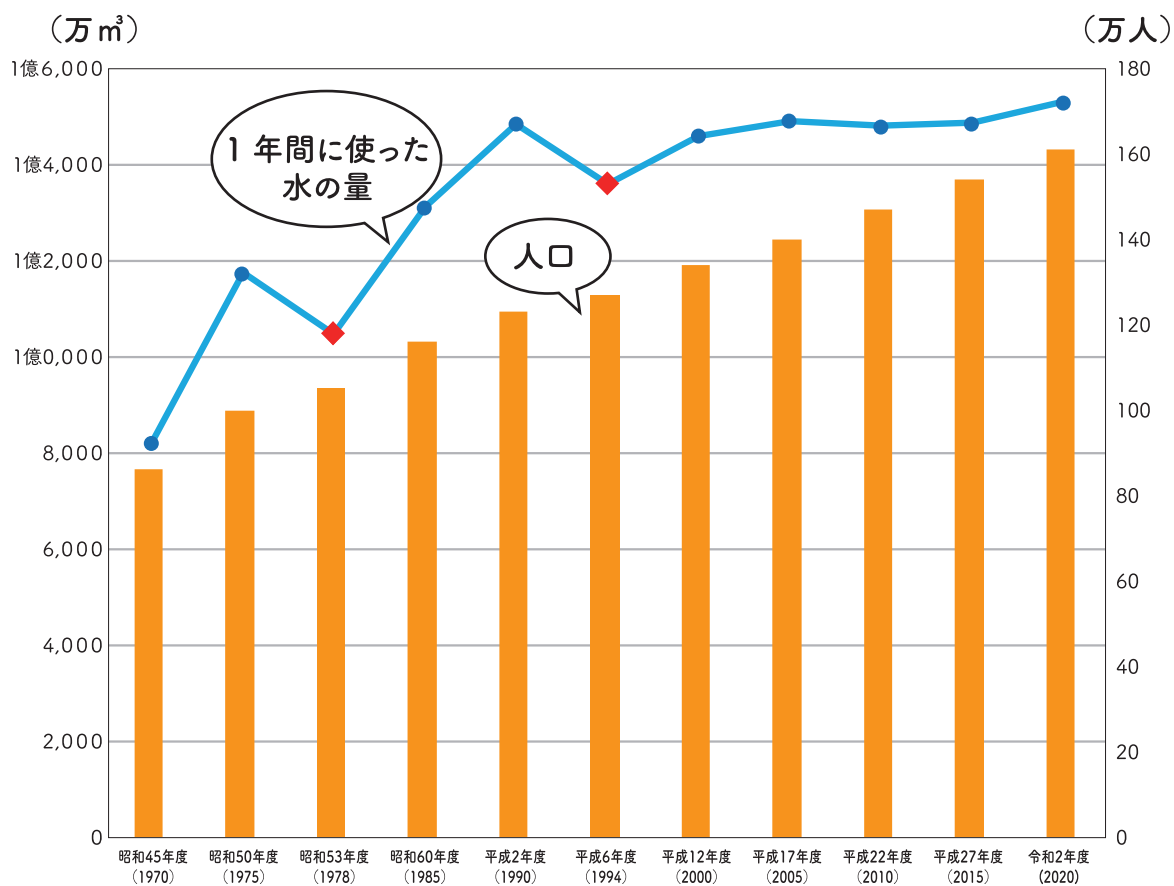
### 3 水道のあゆみ

#### ③使った水の量の変化とふえてきたわけ



使った水の量はどのように変化しているのかな。

#### 1年間に使った水の量のうっりかわりと人口のうっりかわり



ふくおかしすいどうきょくとうけい  
(福岡市水道局統計)



上のグラフから、福岡市の人口が増えていることがわかるね。だから使う水の量もふえてきたんだね。

(解 説) ●「1年間に使った水の量」は、福岡市の年間給水量です。

●昭和53年度及び平成6年度は水不足により、長時間、水道を使える時間が制限されていたため、使用量が減っています。

●令和2年度末の人口は1,615,382人で1年間に使った水の量は152,241,300 $m^3$ です。

人口が増えたことの他にも、何か理由はないのかな？



### 家の中の様子では



むかし

今

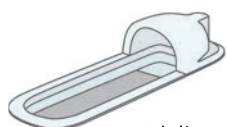


ふろのみ

ふろ



ふろ・シャワー



くみとり便所  
(水は使わない)

トイレ



すいせんトイレ  
(1回でバケツ一杯分)



せんたく板とたらい

せんたく



せんたく機



家の中でも、水を使う事が多くなったんだね。

(ねらい) 水の使用量が増えてきた要因には、人口の増加だけでなく、生活様式の変化やホテルや飲食店の増加といった町の様子の変化があることにも気づかせてください。

(解説) ●くみ取り便所が水を使わないのに対し、水洗トイレは1回に約8ℓの水を必要とします。

●水の使用量が増加した他の理由として、自動車台数の増加による洗車時の水の使用量の増加、シャワーの使用などがあります。

### 3 水道のあゆみ

#### ④ 広がってきた水道

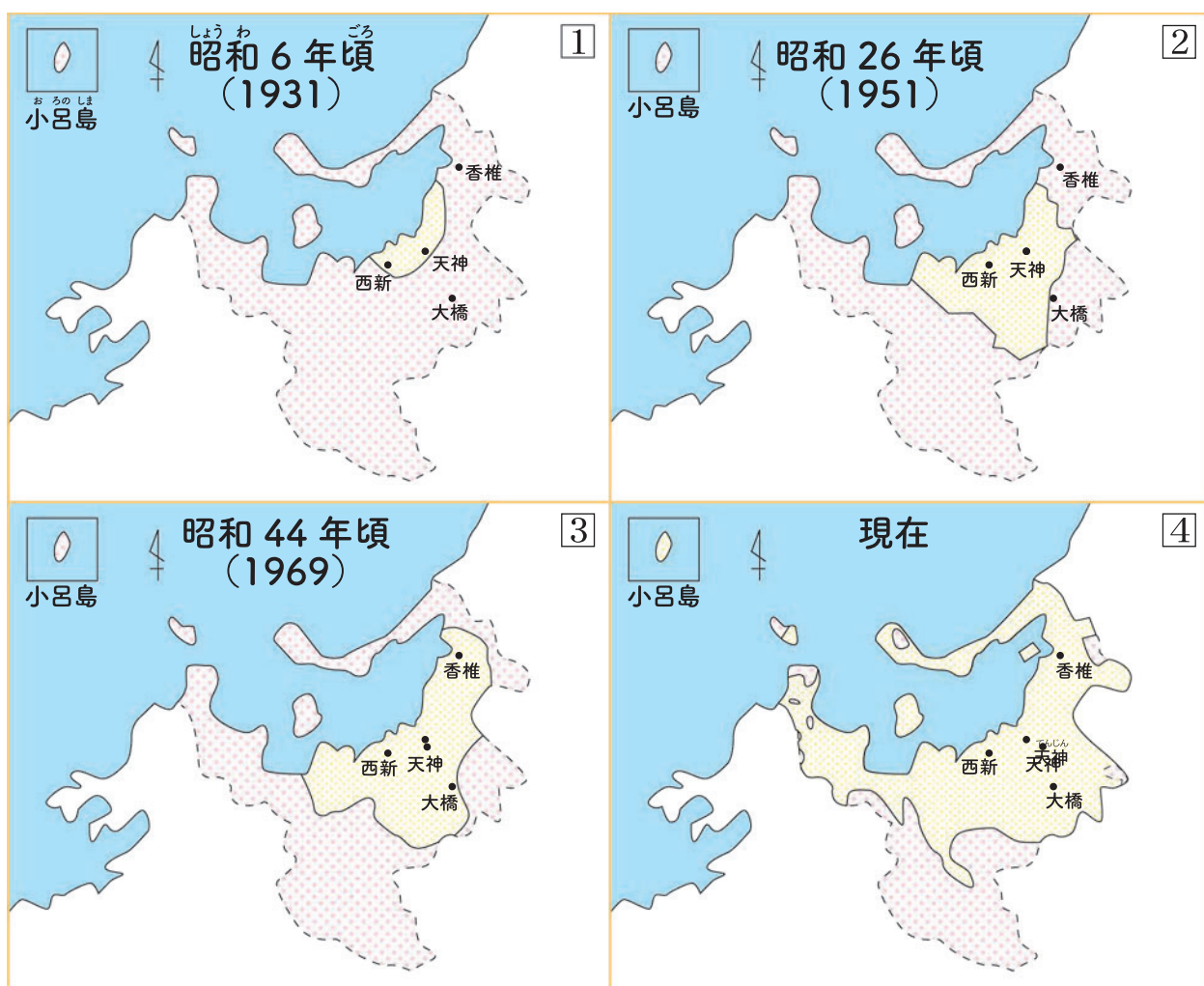


水道を使うことができる地域は、どのように広がってきたのかな。

#### 水道を使うことができるようになった地域の広がり

水道を使うことができる地域

現在の福岡市の広さ



福岡市の水道は、しだいに広がってきたんだね。今では、ほとんどの人が水道を使えるようになったんだね。

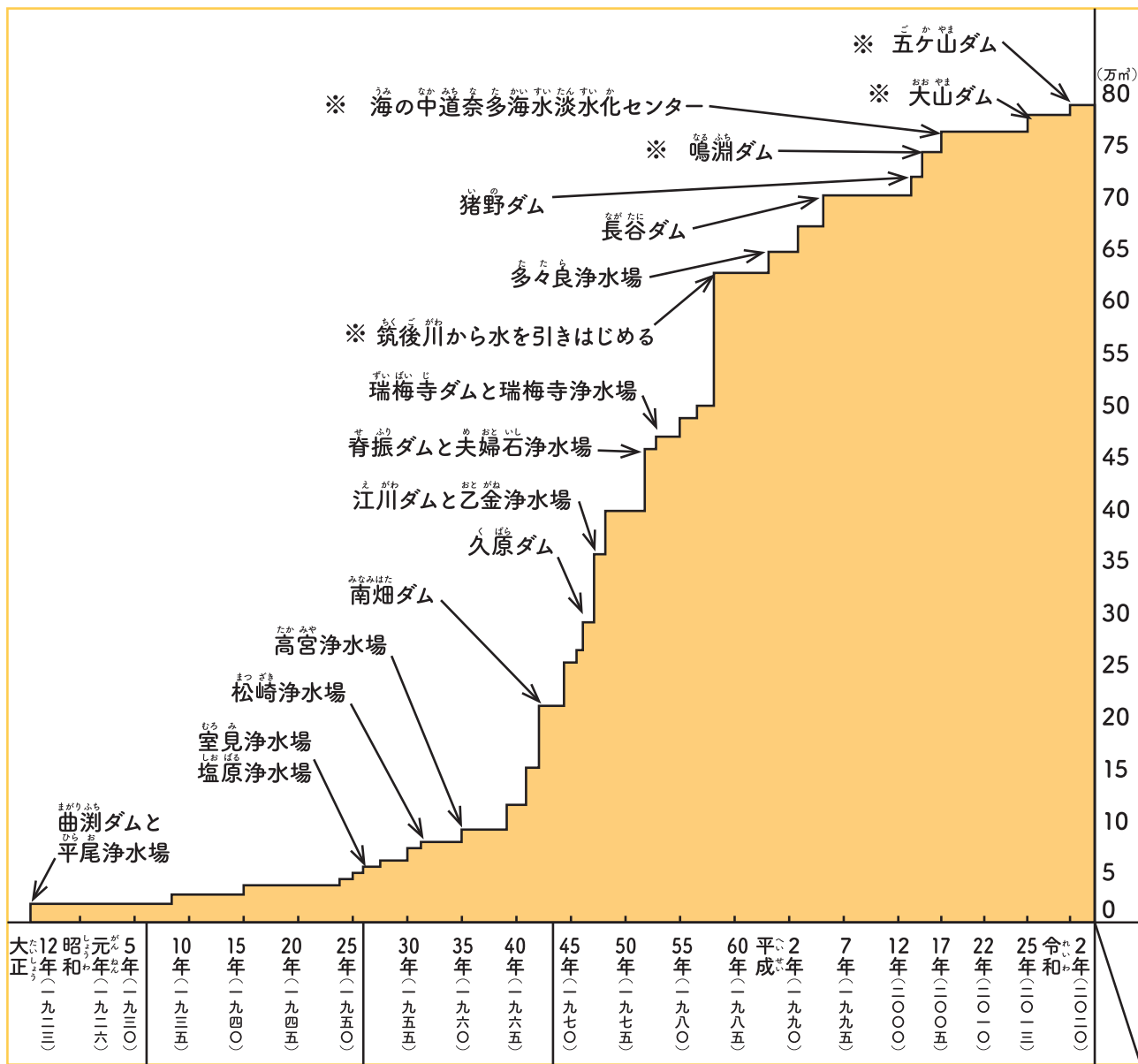


(ねらい) 給水地域がしだいに広まってきたこと、現在では山地を除くほとんどの地域で水道が使えるようになったことに気づかせてください。

(解説) ●現在までに多くの拡張工事を実施して給水能力を高めてきたことに気づかせてください。市域の拡大に伴う人口の増加、生活水準の向上などによって、水の需要量が激増しました。

# 増えてきた福岡市のダムや浄水場と1日に配れる水の量のうつつりかわり

(福岡市水道局統計)



左の地図の番号 ①

②

③

④



福岡市では、人口がふえ続けています。そこで、市では人々が水に困らないように、ダムや浄水場をつくったり、遠くの川から水を引いたりして、たくさんの水を配れるようにしてきました。今では1日に配れる水の量はプール 2,167はい分(約 78 万 m<sup>3</sup>)までになりました。これは、はじめて水道ができたときの約 50 倍です。

- (解説)
- 室見浄水場は現在、取水場になっています。平尾浄水場は夫婦石浄水場ができて廃止になりました。塩原浄水場は乙金浄水場ができて廃止になりました。松崎浄水場は多々良浄水場ができて配水場になりました。
  - 給水区域内の給水普及率は約 99.7%です。(令和3年3月末現在)
  - ※印は福岡市が福岡地区水道企業団 (P11の解説参照) から受け取る水です。
  - プールは小学校の25mプール(360m<sup>3</sup>)で換算しています。